
百獣の王

羽毛蛇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

百獣の王

【Nコード】

N3875BA

【作者名】

羽毛蛇

【あらすじ】

世界中の生き物を見て回りたい。そんな夢を持った日本人が「ONE PIECE」の世界に転生し、主人公一行と「自分だけの生物図鑑」を作る為に旅に出ます。

作者の初投稿作品になりますので、ツツコミどころが多々あるかもしれません。がよろしくお願ひします。

プロローグ(前書き)

はじめまして。作者の「羽毛蛇」です。

投稿は始めてですが、よろしくお願いします。

プロローグ

「コケコツコッ!」

「……………んあ?」

目覚めるとそこは見知らぬ砂浜でした。

……………はいいつ?

いやいやいや、ここ何処?マジで?

いや、落ち着け、まずは現状確認だ。俺は「藍沢^{あいざわ}匠^{たくみ}」中洲のNO.1
1ホストだ。酒に飲まれるなんて俺らしくもねえ。

……………あれ?……………あつるえ?本名が思い出せん。

やべえな。相当酔っ払ってるみたいだけど、別に二日酔いつて訳でもなさそうだ。一時的な記憶障害か?世界中の生き物を見て廻る為の資金集めでホストなんかやってんだから、記憶障害になるまで飲むなんて馬鹿らしい。まあ、酒は好きだけど。

てかここは本当に何処なんだ?百地浜?……………百地にこんな森はないな。ていうか俺は泳げないから海には近づかん。

まあ、じっとしていてもしょうがないし、どっか見覚えのある場所まで歩くか。流石に酔っ払って福岡から脱出してることは無いだろ

うし。

「コケコツコッ!」

さて、歩き始めて1時間。

海です。ただひたすらに海です。

なんで? 海岸沿いに1時間も歩き回って左手に海、右手に森。こんな場所はしらん。ていうか森っていうよりジャングル(?) に見えてきた。なんかジャングル(笑) から鶏の声聴こえてるのも意味不明だし、ちよつと見にいつてみるか。鶏かわいいしね。

.....

結論から言おう。こんな鶏はいねえ!!

鶏冠があるし尾は鶏なんだが、体は何故か狸っぽかった。

UMAを発見したので取り敢えず捕獲。携帯で写メろうとしたんだけど、なんか携帯もなかった。この時点で俺は現状を夢だと断定した。何があっても商売道具の携帯を手放す訳が無い。

だから兎みたいな蛇がいても、ライオンみたいな豚がいてもしょうがない。スルーライフを決めこんだ。

・・・でも、この変な生き物を何処かで見たことがある気がする。
大好きな漫画で。某ハンター漫画だったか？

そんな事を考えながらポケットからタバコを探していると、

「それ以上踏み込むな!!」

何処からか、ていうか箱からモジャンボが生えてる（笑）辺りから
声がした。

ああ「ガイモン」だ。という事はこの夢は「ONE PIECE」
か。「ONE PIECE」は2番目に好きな漫画なので暫く夢を
観てるのもイイかな？

「くらあ!!無視すんな!!さつきからポケットとしやがって!早く
そいつを放せ!!」

「そいつ?」

「お前が抱えてる鶏だよ!!!放さなければ貴様は森の裁きを受け
その身を滅ぼす事になるのか?」

やっぱ疑問系なんだ（笑）そんな事いわれても夢の中でしか触れな

い不思議生物なんだから、そう簡単には手放せない。それにこいつはどちらかというど鶏っぽい狸だ。あれ？そういえば夢の中なのになんでモフモフ感を感じられるんだ？

「だから無視すんなって！！もういい！森の裁きを受けろ！！」

ズドオン！！

「・・・つてえ？」

なんだこの痛み？チリチリと焼ける様な痛みがする頬を撫でると、手には真紅の血。

その生温い鮮血と徐々に麻痺していく頬の痛みは余りにもリアルで俺は本当に「ONE PIECE」の世界に来て仕舞ったんだと唐突に理解した。

プロローグ（後書き）

いかがでしたか？ってまだ原作と絡んでませんけどね（笑）

小説って難しいですね。ご指摘・ご感想がございましたら、遠慮無くお願いします。

どんなにけなされようが最後まで投稿します。作者はしつこいし暇なので。

珍獣島(仮)でマシオカで叫ぶ(前書き)

地の分が多いですが主人公の過去なので多めに見てください。

珍獣島(仮)でマシオカで叫ぶ

「やったー」
「！！！！」

「うおっ！お・・・お前なんだ！！いきなりどうした？Mか？Mなのか？」

俺は間違いなく「ONE PIECE」の世界にやってきた。それを理解した1番素直な気持ちだった。

だって「ONE PIECE」だぞ！？珍獣だらけじゃん！碌な遊び道具も与えられず英才教育だかなんだか知らんが物心ついた時から勉強ばかりさせられていた俺にとって百科事典に載っていた動物たちの挿絵を見るのは唯一の楽しみだった。

いつか自分の目でこいつらを見てみたい。夢の中での俺は世界中の動物たちと友達だった。幼稚園のお受験には初歩的な動物たちの知識も必要だったからだろうか、両親は百科事典じゃない動物だけの図鑑も頼めば買ってくれた。勉強は好きだったからそんな感じで俺はいい子ちゃんに育った。

小学校5年生の時、宿泊学習に友達が漫画を持ってきた。某ハンターが主人公のその漫画は俺の心を揺さぶった。衝撃だったんだ。欲しいものを自由に追い求めるその職業が。俺は将来ハンターになる。

そんな子供らしい夢を持った。

家に帰って両親にその話をすると・・・キレた。それも烈火のごとく。

そして俺は愚れた。こちらも烈火のごとく。「健全な精神は、強靱な（？）肉体に宿る」とか言って俺に空手と柔道、ついでにサバットまで習わせていたくせにメタボだった親父は小学5年生にそりゃあもうあっさりと負けた。

表面上は和解したが親父の関心が2つ下の弟に移ったのをいいことに俺は本格的にハンターになる準備を始めた。あの一件以来俺の頼みを大概聞いてくれる親父に頼んでネット環境を整え、知識を吸収した。中学3年になる頃にはさすがにハンターになるうとは思ってはいなかったが、それでも世界の生き物を見て回ることは夢見ていた。

高校を卒業すると同時に家から放り出され、自分で生きていくことになった。マンションの1か月分の家賃しか払われてなかったのであわてて仕事を探していたらホストクラブの店長に声をかけられ月締め即給というその店のシステムに引かれて入店した。

まあ結果を言えば天職だった。入店一ヶ月でNo.1になりそれから6年その地位を守り続けて稼ぎまくった。少々贅沢をしても遊んで暮らせるお金はとつくにあっただが、俺は世界を旅するつもりなのでまだまだ稼ぐつもりだった。

いきなりこの世界に飛ばされてお金は無駄になったが、この世界には元の世界じゃ考えられないような珍獣がわんさかいる。楽しみでしようがない。

「聞けえー！ー！！頼むから話を聞いてくれ（泣）」

どうやら俺が長い回想に浸っている間、ガイモンさんはずっと俺に話しかけ、もとい叫んでいたらしい。悪いことをしてしまった。

「いやあ、すみません。この島にこれたのがうれしくて」

「なに！？お前はそんな小さななりで海賊か？いや、鶏を放さねえ所を見ると密猟者か！？」

だからこいつは狸だつてのに、いや1回もツツこんでなかったか。それはいいとして小さななり？俺は24歳、身長は186cmだぞ？小さくはないだろ？まあこの世界では身長3Mとかの人間がいるからでかくはないだろうが、そういえば俺の声がずいぶん高く感じるし視線が低い。

?????・・・いやな予感しかしねえ。

「おじさん鏡もってる？この子放してあげるから貸して？」

「鏡？ほれ。ちゃんとそいつ放せよ！」

ガイモンさんが鏡を放ってよこす。要求しといてなんだがガイモンさんが普通に鏡を持ち歩いていることに驚いたがこの際それはスルーだ。えらくかわいらしいデザインにも驚いた（若干引いた）がそれもスルーだ。俺のスルースキルは割りと高い。

恐る恐る鏡を覗き込み愕然とする。

「誰だお前!？」

不意に思い出す。俺はバースデイイベントであまりに飲みすぎて急アルで倒れたんだ。意識はあった。呼吸が止まっていくのもなんとなくわかった。

「ああ、俺、死んだんだ」

どうやら俺は異世界漂流者ではなく、異世界転生者だったようだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3875ba/>

百獣の王

2012年1月10日03時50分発行